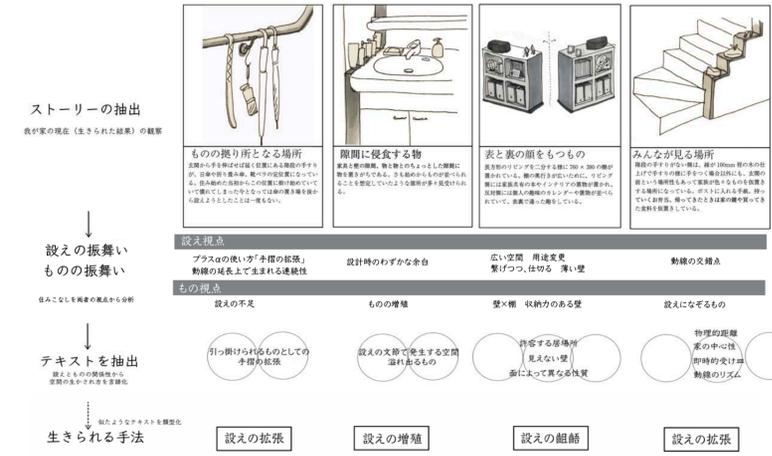
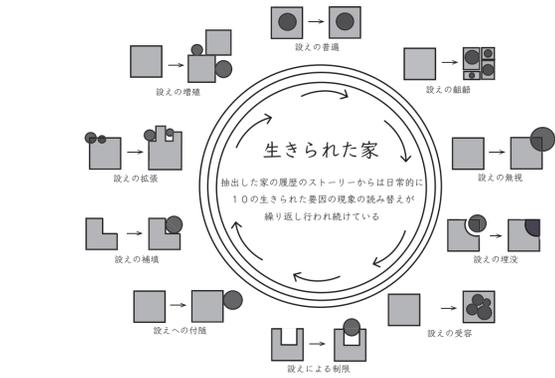


〈分類1〉ストーリー別による家の言語化

生きられた家の履歴で記述したストーリーから、重要な要素をテキストとして抽出し 120 のテキストを類型化した。

我が家の履歴のテキストは、
 設えの普遍、設えの拡張、設えの増殖、設えの補填、設えの付随、
 設えによる制限、設えの埋没、設えの受容、設えの無視、設えの齟齬
 の10コに分類できた。

言語化することで、生きられた家を作り出した現象を整理した。



生きられた現象→生きられる手法



設えの普遍 設えの普遍にしか置けない、あるいは位置になった現象
 冷蔵庫、時計、ゴミ箱、ティッシュ、リモコンなど、どんな家にも必ず存在し、ないと暮らしていけないものでもあ
 るこれらの設えは、最も早い段階で見られる設えである。生きられた空間の初期要素であり基盤となる設えと考える。



設えの拡張 設えに絡みついてきたもの、設えの延長上で増える現象
 階段の手摺による吊るす行為の拡張、増殖するものの隙間の利用による洗面台の拡張、梁を利用した天袋によるもの
 の拡張、贅肉の棚、創作の家具、延長のつり棚、スポットライトによる居場所の拡張、回転椅子への変化による空間認識
 の拡張、ものの増殖による入れ物の拡張、収納中の収納の隙間の拡張、ライトを設置したことによる新しい居場所の
 拡張、など
 すでに存在する設えに習いつつ、その空間の使いかやものの置き方や更新の仕方に工夫を凝らして使い勝手の良い場所
 を作りだす欲動が現れている現象である



設えの付随 設えに運動して作られる設えの現象
 回転椅子と踏み台、コンセントの補装、洗濯機の周辺、ベットと本棚、テレビとテレビ台、引き出しと仏壇、リビ
 ングとテーブルなど、既存の設えとは別の要素であるが、関連するものか置かれるようになるシーンが見られた。
 設えの増殖に変わりがなく、設えの質の優先順位としては高く、日常生活の基準となる身体的スケールを作り出して
 る現象が多い。



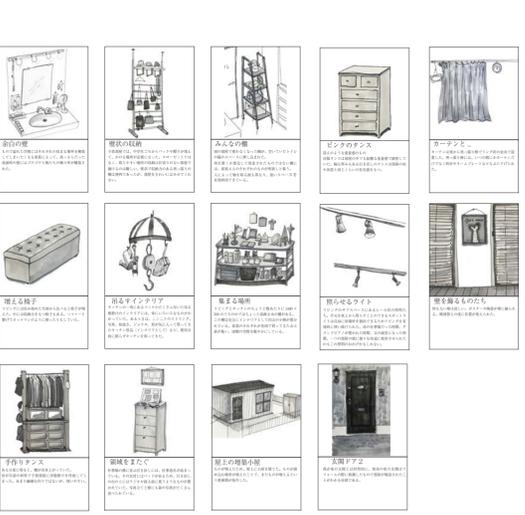
設えの制限 設えによる制限: 能動的に設えられ、強制力が強い設えに起こる現象
 既存の設えによって容量が決まっているもの、後から設けた設えでも領域や振る舞いを制限するもの、自らものを広げ
 過ぎないようにまたは認識しやすくするために領域を設定したもの、など
 生活上で、領域を自ら設定することで生きやすくなるシーンが多々存在することがわかった。
 この項で抽出した例は、自ら決定した領域内でやりくりできているものが多いが、中には結果的に設えを拡張したものや、
 設えを補填するものになったものもある。



設えの埋没 設えの埋没: 時間が経つて住みこなされた我が家特有の現象
 ものによって設えに時間が刻まれた現象、長年居続けたものが設えのように意識することもない存在になった現象、
 など
 時間の経過で、ものを使い出した当初には想定されない結果を生んだものが多い。分類の中で、最も私たちが家族の質が
 生み出してしまった現象と言える。



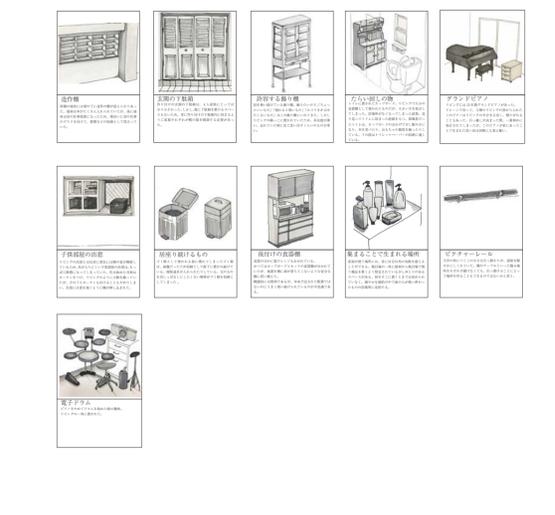
設えの増殖 設え・ものが無秩序に増えていく現象白い壁 (余白) を利用した設え、壁状の収納、目的を持たずに設
 置されたリビングの棚、収納できる椅子、空いているスペースに移動させられる贅肉のような棚など
 暮らすために必要な家具やものを揃え終わった後の余白を見つけ、さらに増えるものを取り所となる設えを作っている。
 「設えの拡張」と異なるのは設えを無秩序に増殖させている点であり、日常生活の上で仮になくとも生活できるものであ
 る。逆に、最も「生きられている空間らしさ」を作り出している設えであるとも言える。



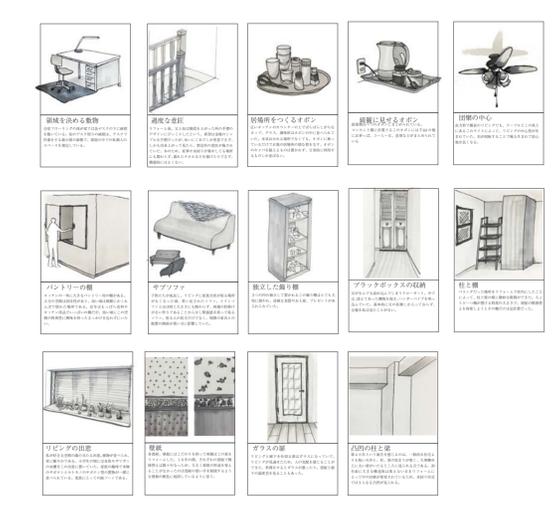
設えの補填 設えの補填: 元からある設えの欠点を意図的に補う現象
 廊下についたレール、飾り棚、脱いだ服を洗濯する前にまとめるかご、お風呂の椅子、台車、など
 廊下など長く何もない壁、動線などにおいてもものを取り所がない場所、身体を取り所がない場所、など生活上で生じ
 てくるあらゆる余白に既存の設えを補うために買ったものや、造りつけたものがあげられる。家に住み始めて早い
 段階で補填されたものが多いが、その時の気分や長年使った時など、突然その設えがなくなったり、更新された
 りするものもある



設えの受容 設えによる許容: 柔軟、寛容性によって起こる現象
 お風呂場に設えられた洗面、普通よりちよっと広いトイレ、廊下の空きスペースにおかれるもの、など
 少し余裕があるからこそ生まれた振舞いは常に家の限られたスペースを十分使いこなしてきた結果だと考える。一旦設
 えた後も、その空間には常に変更できる余地があり、仮置きだったはずが常にか置かれるようになり、ある日突然な
 くなって、空間が広くなる時もあった。



設えの制限 設えによる制限: 能動的に設えられ、強制力が強い設えに起こる現象
 既存の設えによって容量が決まっているもの、後から設けた設えでも領域や振る舞いを制限するもの、自らものを広げ
 過ぎないようにまたは認識しやすくするために領域を設定したもの、など
 生活上で、領域を自ら設定することで生きやすくなるシーンが多々存在することがわかった。
 この項で抽出した例は、自ら決定した領域内でやりくりできているものが多いが、中には結果的に設えを拡張したものや、
 設えを補填するものになったものもある。



設えの無視 設えの無視: 将来的に必要なさやもの起こる現象
 長年かと思っていたものを使わなくなった現象、設えに合わないものを無視して強引にしている現象など
 長年の生活の中や家族の感情や妥協が生じた現象。



設えの齟齬 設えの齟齬: 空間ももの単体にも齟齬があるときに起こる現象
 広い空間の中で身体的スケールを獲得するとき、狭い空間で様々な用途のものを同居させる時、など
 比較的大きな設えになると、身体的スケールを獲得するために一つの家具を意図的に分離して使ったりする。



09. 設計実験 2 具体的な家の機能を持った空間の提案

実験1で考察して得られた、生きられる設えの配置や組み合わせの空間構成を用いて、履歴を記述した生きられた家・我が家のゾーニングをベースに機能性を考慮した生きられる家を設計した。実験1の4つのモデルはいずれも、居室名や、使い方が読み替えられることを前提とした設えを構築したのに対し、具体的な水回りやキッチンの機能や、階高、天井を設定した。このモデルにおいても外部と接する箇所は規定せず、内部にいる人間から見た生きられる設えを追求している。



1Fは玄関と、4つの寝室。

4つの寝室はmodel C Dで検証した一人一部屋で使うことを想定し、一室を構成する手法を増やすことで多様な居方ができる空間を設計した。

4つの部屋も全て設えが異なることで、部屋を交換したり状況に応じて使い分けられることができると考える。2Fへ上がる階段は段差の増殖の手法により、階段としてだけでなく棚、机、椅子として読み替えられる。



2Fはリビングと水回り。

LDKは緩やかにつながりつつ、3つの異なる手法を用いることで、

Model Aのように家族が集えるが、単調にならずメリハリのある設えを設計した。

水回りにおいても、設えの付随によってドアが飛び出ている場所が中間領域として利用できたり、お風呂や家事室も開口や出入り口を多く設けて、他の使われ方の余地を残し生きられる要素を設えた。